

第1回県中ブロック会議

2025. 6. 5 (木)

《テーマの確認》

「つながりづくり」

私たちの世代は、子どもの頃から**つながる楽しさ**というのを知っていた。**つながること**は**面倒くさい**ということもあるが、**本当は楽しい**ということを分かってほしい。

今、とにかく私たちがやらなければならないのは、**地域で孤立している家庭**に対して、**そこからなかなか出てきてくれない、出ようとしない家庭**に対して「**こっちは楽しいよ**」ということを伝えていきたい。

信じていただいて、顔を出していただくような**魅力的なプログラム**をやっていく。

そして、「**何だ、来てみたら楽しいじゃないか**、

そして、「**つながることがくせになる**」、

このような流れにできたらいいなと思っている。そのためには、**皆様方がそれぞれ持っているスキルやこれまでの経験をフルに使って**、何か一步前進するという流れにしたい。

本当はこの会主催で何かイベント等できたらいいが、なかなかそこまでの力も時間もないので、それぞれの**団体が現在行っている活動**にちょっとお邪魔したり、学生の**ボランティア**等も含め様々な方と試しに**つながってみたりして**、**楽しかったという体験を重ねて**いけば、それが**絶対よい方に波及していく**だろうという思いである。

今年度はこれらのことを柱に進めていきたいと考える。

《協議 発表》

OA グループ

様々な地域からの情報や学校・企業からの情報を、どのようにキャッチして、それをどうつなげていくかというところを話題にしました。

一つ例ですが、私は小原田中学校区の地域コーディネーターをしています。今年度、中学2年生から、私たちの学校の卒業生である西田敏行さんについて授業を徹底的に行いたいという話をいただきました。私が教壇に立って、面白おかしく授業するのは簡単なことですが、それだけでは面白くないだろうという思い、そこで、西田敏行さんと一緒に小・中学校時代を過ごした地元の諸先輩方に教壇に立ってもらおうという企画を考えました。それらを地域の皆さんに相談したところ、喜んで参加して下さるということになりまして、3時間の枠で実施することになりました。1時間目は、1番の親友だった方が、当時の秘蔵映像を持っているということで、秘蔵映像を流しながらの授業。2時間目は、西田敏行さんと親友たちが歩いた道を、生徒たちと一緒に小原田を歩こうという授業。3時間目は、学習を振り返りながら、ワークショップ形式でまとめる授業となる予定です。皆さんに参加してもらえるシチュエーションをどのように考えていったらいいのかというときに、自分たちだけで完結しないで、手を出してもらって口を出してもらって、さらにはお金も出してもらおう…と。皆さんが交流しやすいようなイベントを企画して、そこでとりあえずやってみようという人たちを募る…。



つなぐ役割の意識として、とりあえずやってみること。そして、やってみた後

に何か気がつくだろうと思っています。成功したら続けられいいし、ちょっと駄目だったらアップデートすればいいだろう。とにかく何か動き出さないとできないのではないかと。次のつながりをまた見つけていくためにも非常に重要なのではないかなというところです。

OBグループ

鏡石町の人口が、約1万2,000人の中で会員数が約900人、町内の1割から2割の方が何らかの形でスポーツクラブに参与しています。陸上大会やマラソン大会では、鏡石の子どもたちが活躍する機会が多いです。学校だけではなく、地域でこのような活動をしているからこそ、子どもたちが育つのではないかと考えています。簡単にまとめると、**学校と地域と家庭、この三つが一体につながる**ことで、こういう子どもたちが育つのではないかと、**ポジティブで強い子が育つのではないか**という話にまとまりました。

つながっていくためにできることは何だろうということですが、この会議に学校のメンバーがいない。せっかく郡山、岩瀬、田村、石川の4地区のPTA会長も参加しているのに校長会から誰も参加してないのは、**やはりちょっと学校側とつながってない**と感じます。学校からも校長会から何人か参加して、この会議で話をするのはどうでしょうか。どうしても、**学校側からの意見を聞くことができず**、こちらからの要望だけになってしまっているの、構成委員について検討していただきたい。



PTA主催で、講演会等が年に一回程度開催されています。一つの課題等に対して子どもと大人と一緒に参加することによって、問題を共有し、帰宅してからも「あれどうだった」など会話もできます。学校と一緒に、大人、子どもも一緒に何かすることによって、つながり、**学校にしてほしい事や自分たちでできる事がだんだん見えてくるのかな**と思います。

我々のスポーツクラブでは、水泳指導や陸上指導の補助に入り、**先生が指導しやすいような環境をつくっています。子どもたちに対して、町として協力する、学校も保護者や地域にお願いしやすい関係性**ができればいいと思っています。

OCグループ

家庭の中では母親がいろいろなことを担う時間がすごく多くなっているので、いろいろして子どもにあたり虐待に発展してしまうこともあります。私も、3人の息子を育てている中で、やはり虐待はよくないとは分かりながらも、目一杯になって子どもに手をあげてしまいそうになったことがあります。悲しい事件になるようなことをしてしまうお母さんの気持ちは理解できるのですが、その母親たちの気持ちや感情を軽くするには、どうしたらいいかというところをもっと考えていきたいと思いました。子どもにとっては、**お母さんが毎日笑顔でいられたら、きっと何よりも子どもたちは安心して成長してくれるのではないかな**と思います。



《総括》 県中ブロックアドバイザー 小林 徹 氏

それぞれの人生に裏づけられ、たくさんの活動をされている中身のある豊かな話をしてくださりありがとうございます。それぞれの立場で皆さんがどのようなことをされているのかがわかりました。

どんな理由があるにしてもやはり、**来にくいものっていうことを減らしていかない**と**来てくれない**というのは間違いなことです。必ず何か理由があって、その理由の原因が分かれば対処方法も見つかる。私たちが想像しながら、なぜ来てくれないのかなあ、なぜ集まらないのかな。どうしたら来てくれるのかなっていうことを、考えながら取り組んでいくことが大切だと思います。

つながるのって楽しいけれど、つながるってことは、自分の中身をさらけ出すことですから、リスクを伴います。そのリスクを乗り越えて、なおかつそれでもつながるのって気持ちいいというような実感は、つながってみなければ分からない。そしてつながって、楽しかったというように思ってもらえないと、やはり、もうそのつながりはそこで途絶えて次につながらないことになってしまいます。つながりをつなげていくってことは、本当に壊すよりもとっても難しい。**一度壊れてしまうとつなげ直すのは本当に大変です。**

昨年1年間アドバイザーとしてやってきてみて、なぜこの委員会が存在し、県が始めていなくてならなかったのかということを考えていくと、やはり昔は「つながる」のは当たり前でしたが、今は、そのつながりが**希薄化、そして、つながる意味が見いだせなくなっている**という考えになっている。しかし、「つながる」ということをもう一度、勇気を出して伝えていくっていうようにする必要があるからです。

私自身、幼少の頃から子ども会活動をしたり、高校生、大学生時には地域の活動や祭りなどを企画したりするのが好きでした。そして今、こういう立場で学生たちにお話ししていますが、どんなに話したところで、経験したことがない、対応したことがない学生たちは、「つながることの楽しさ」を話しても分からないのです。「百聞は一見にしかず」と言えますけれども、学生たちには、たくさんつながる経験をしてほしいと思っています。例えば、支援学校の運動会にボランティアとして参加したり、地域の行事に参加したりすることで、学校で学んだことと自分が経験したことが合致し、一つ一つがすっと落ちていくようにしたいのです。

つながったから分かるのです。

つながらなかつたら分かったつもりだけです。

とにかくつながる経験なのです。

すばらしいキャリア、そしてセンス、スキルをお持ちのここにいる皆さん方と一緒に、さて何ができるかと考えるとちょっとわくわくしますよね。

委員の皆さんがそれぞれの持ち場でやってらっしゃる小さなイベントに全員が押しかけるというのではなく、行ける人がちょっと行って、できることをお手伝いする。専門性がなくても、そういうところに行って、こういう活動をやっているのだなということを知ることが大事です。皆さんそれぞれの持ち場で知恵をフルに回転させて過ごしてらっしゃるわけですが、ちょっと違うところに行ってみると、これはこんなふうに工夫したらいいのではないかということも出てくると思うのです。だから、各団体のイベントや応援企業が開催するイベントがありましたら、私をはじめ、ここで、声を上げていただいて、そこにそれぞれのメンバーがお邪魔できるようにしたいです。見学だけでもいいですし、もし可能であれば学生なども声をかけていただければぜひ伺わせてくだ



さい。私も、働きます。喜んでお邪魔したいと思います。

つながるってことは、それは、文化と文化がつながることです。
文化が交流するという意味では、やはりこの委員会も同じことなので、**おっかなびっくりしながらも相手のことを知ってみて、そしてつながっていくというのは大事なのではないかな**と思っています。

文化と文化がぶつかると、つながるための知恵が出てきます。皆さん方がご家庭を維持するのもそうだし、団体、グループを維持したり組織を維持したりするのもそうですが、そういう皆様方の知恵を何とか導き出しながら、つなげていきたいと思っています。ただこの委員会は、残念ながら今日が第1回で第2回が来年1月です。1年間を放置されるといいますか…。そこで、例えば、何か私たちはこういうのをやるけれども、ちょっと見に来てもらったりお手伝いしてもらったりできないかということを事務局に提供し、「つなぎ役」にしていきませんか。もし学生の手が必要であれば、どんどん連絡してください。ボランティアとして伺います。

昨年、企業にアンケート調査を依頼して、「地域と連携していますか」と尋ねたところ、意外と幾つかの会社が職場体験をしているということを知りました。その会社の近くの小・中学校の児童生徒に、会社の職場体験をさせたり、ご家族が勤務されている会社で体験を受け入れたりしているようです。それを、他地域の親子連れでも職場体験できるような企業が、一つでも二つでもあればなお楽しいですね。事務局でも十分対応できるということなので、そういうことも並行していきながら、**とにかく、「つながる」というところを模索する1年にしてできれば、1月の会議でちょっとでもいいからほんのちょっとでもいいからこんなことができましたっていうのを、見せあえたらうれしいな**と思います。

今日のお話を伺う限りでは本当にいろんな経験やいろいろな活動を活発にされていらっしゃる皆さんなので、私はきっと何かいけるだろうと期待していますし、しなくてはいけないなと思っているところですので、どうぞまた次の1月により報告ができるよう、お互い連絡取り合っていければと思います。